WILL

徳島健祥会福祉専門学校 同窓会会報｜ウィル

vol.07

March 2014



本校の活動状況について

徳島健祥会福祉専門学校 学校長　齋藤史郎

平成24年12月に第二次安倍内閣が発足後、我が国の経済は回復に向かい、２０２０年には東京でオリンピック競技大会が開催されることになりました。ただ、日本は自然災害の多い国であり、国際環境も常に緊張状態にあります。そのさなか、多年にわたり教訓と激励の言葉をいただいてきた中村博彦理事長が平成25年7月31日に急逝されたことは痛恨のきわみでした。しかし、後任に中村太一理事長が就任され、新体制のもとで新たな活動が推進されています。

本校では、昨年度は１４４名（就学生２名を含む）が卒業し、就職希望者の全員が就職しました。理学・作業療法士国家試験の成績は良好でした。本年度は１７７名が入学し、その中に兄弟姉妹入学金半額免除制度に４名、同窓生推薦制度に23名が推薦されています。４月に５名の教員を採用し、そのうちの２名（松田圭司、北田功）は卒業生です。海外研修旅行は９月23日より９日間、４学科合同でドイツ、オーストリア、スイスで行い、教職員４名、学生39名が参加しました。

介護福祉学科では、介護福祉士実務者研修（通信制）を開始し、インドネシア教育大学の学生４名に２ヶ月間の研修を行いました。理学・作業療法学科では、新たに「まなび学、英語コミュニケーション、接遇実践論、国際医療学、施設実習」の５教科を導入しました。保育福祉学科では、「おぎゃっと21」に参加し、ワンダー元気セミナーを実施しました。

同窓会総会は学校祭（本年度は学校単独で実施）に合わせて開催し、多数の同窓生にイベントを楽しんでいただきました。平成24年度卒業生のご寄付により電子黒板を設置しました。

現在進行中の計画としては、平成22年10月に開始した徳島大学への委託研究事業は最終年度を迎え、①高齢者リハビリテーション、②認知症ケア、③口腔ケア、について研究のまとめをしています。その成果は科学的介護、高齢者リハビリ、嚥下性肺炎の予防などに反映されはじめています。キャンパス内には「むくの木クリニック」が平成26年３月１日に開院しました。地域医療と学生や関係者の診療に役立ち、教育・研究にも活用されます。

平成25年度の卒業生を加えますと、同窓生の数は２１６４名をとなります。医療と福祉の将来を担う皆様のいっそうのご活躍と、同窓会のご発展をお祈りいたします。



初めに意志ありき

健祥会グループ理事長　中村太一

同窓生の皆様はじめまして。昨年7月31日に急逝しました中村博彦健祥会グループ創始者のあとを受け継ぎ、理事長に就任いたしました中村太一です。

徳島健祥会福祉専門学校は、少子高齢人口減少社会の行く末を案じた中村博彦創始者が、「介護福祉は国民的課題であり、専門技術と知識を持った福祉スペシャリストの育成が急務である」として開学し、以来、時代の要請に応えるべく、理学療法、作業療法、保育福祉各学科を増設、高い専門性と人間性を備えた人材の育成に注力してきました。

現場の声を制度へと届けながら、利用者視点に立った介護福祉サービスを構築してきた創始者は、一貫して医療・介護職の専門性の確立と地位向上を強く訴えてきました。特に、参議院議員としてはじめての国会質問で介護職の医行為を取り上げ、問題提起を続けた結果、痰の吸引などの医行為を認定特定行為として制度化できたことが印象深く思い出されます。

今、新しい日本のカタチを描くべく、社会保障の在り方が議論されていますが、制度の行方がどうあろうとも、時代を担う専門職としての皆さんの役割は重く、常に進化刷新が求められます。介護福祉士においては資質の向上をめざして国家資格の取得方法が一元化され、理学療法士、作業療法士も、各協会における認定制度により専門性の向上が図られています。幼児教育の充実・強化のために保育士の資質向上も求められています。すべての人材が職の専門性を問われる時代であることを肝に銘じ、現状に甘んじることなく、その職業領域をより広く深く追求し、専門性の高みをめざしてください。

そのために皆さんの母校はサポートを惜しみません。卒後教育の場として研修等をさらに充実させ、健祥会が構築する科学的介護のノウハウ、研究と挑戦の成果は、最前線の情報とともに皆さんに還元してまいりたいと考えます。どうぞ同窓会の絆をいっそう強固なものとし、情報交換、切磋琢磨の場として活用してください。

「専門性を磨け、人間性を陶冶せよ」と口を酸っぱくして説いてきた創始者の想いと自らが職を志した初心を忘れることなく、ますますのご活躍を期待し、開学にあたって創始者が刻んだ学校訓をあらためて、ここに記したいと思います。

初めに意志ありき
観察眼を養え
問題提起力を持て
そして労を惜しむな



WILL

vol.07
March 2014

［ウィル：意志］

徳島健祥会福祉専門学校
訓
初めに意志ありき
観察眼を養え
問題提起力を持て
そして労を惜しむな

02 **MESSAGE**
徳島健祥会福祉専門学校　学校長　齋藤史郎
健祥会グループ理事長　中村太一



05 ロングインタビュー
「プライドを持とうよ」
ボクらの専門性が超高齢社会を支える
徳島健祥会福祉専門学校同窓会会長　藤原慶治



08 +UPDATE
それぞれの現場で頑張る
4 学科卒業生近況報告



10 EPA 卒業生インタビュー
今を楽しみ、今を頑張り、
もっともっと上をめざして!



11 2013新任教員紹介
教員増強で、教育態勢の充実を!
卒後教育にもいっそうの注力を!



12 各学科同窓会勉強会
専門職として常に進化し続けるために!
いつもいつまでも「学び」を支える同窓会でありたい



13 **同窓会総会・同窓会役員紹介**



14 中村博彦メモリアル
ありがとう!中村博彦理事長先生!
数々の教えを胸に、現場で頑張ります!

ロングインタビュー

「プライドを持とうよ」ボクらの専門性が超高齢社会を支える

徳島健祥会福祉専門学校同窓会会長　藤原慶治



藤原慶治［ふじわらけいじ］
「長寿の里、安心・安全の高齢者住宅 春水」施設長
徳島健祥会福祉専門学校介護福祉学科１期生

1977(昭和52)年　9月7日　阿波町（現阿波市）に生まれる
1996(平成８)年　3月　阿波高校卒業
1998(平成10)年　3月　徳島健祥会福祉専門学校介護福祉学科卒業
同　4月　社会福祉法人さわらび会
「特別養護老人ホームかもな園」に介護職として勤務
2009(平成21)年11月　徳島健祥会福祉専門学校同窓会会長に就任
2010(平成22)年12月　医療法人川内内科「長寿の里、安心・安全高齢者住宅　春水」立ち上げに責任者として参画
2011(平成23)年12月　施設長に就任

美しいアロワナに迎えられて

眉山の裾野に広がる静かな住宅街に、モノトーンの色調で落ち着いた佇まいをみせる建物がある。「長寿の里、安心・安全高齢者住宅　春水」。ここが徳島健祥会福祉専門学校同窓会会長藤原慶治が施設長を務めるサービス付き高齢者向け住宅だ。

玄関を入ると受け付けの傍らに設えられた水槽で、熱帯魚たちが迎えてくれる。悠々と泳ぎ回る、色とりどり、大小さまざまな魚たち。いちばん大きく、うろこが美しいのはアロワナか。顔をはじめて見たが、大きな眼でずいぶんかわいげがある。ついつい要件そっちのけで、その泳ぎを眺めてしまう。併設されているデイサービスセンターへ通ってくるご高齢者もきっと訪れるたび癒されていることだろう。

高齢者施設とは思えない、このゆとり感が心地良いなあと、水槽に見入っていると、そこへ藤原施設長が、この空間に似合いの、若々しさ、さわやかさをまとって現れる。ああ、介護施設はもう特別なものじゃない、美容院やレストランと変わりないくらいに日常的なものになっているんだと、あらためて思う。

藤原慶治
1977年生まれ36歳

徳島健祥会福祉専門学校介護福祉学科の1期生として1996年入学、まだ介護保険制度が施行される前、1998年4月に介護福祉士として現場に出た。特別養護老人ホームで12年間勤務し、3年前、サービス付き高齢者向け住宅の立ち上げに参加。今、施設長として施設を運営する。

今でこそ、介護人材の枯渇が叫ばれ、その人材確保と専門性の向上の必要性が謳われているが、20年近く前、まだまだ介護は女性の仕事であり、1987年に介護福祉士の国家資格が創設されたものの、一般的には寮母さんと呼ばれる無資格の仕事だった。その時代に、なぜ18歳の少年が介護を志したのかをまず問うて、ロングインタビューが始まった。

なぜ介護福祉士をめざしたのですか？

母方の祖父母がお世話になっていた高齢者施設によく遊びに行っていたのですが、その施設はとても家庭的な雰囲気で、ボクにはいい印象しかありませんでした。また、脳梗塞で半身麻痺となり、そのうち認知症も発症した父方の祖父は、家で家族が看ていましたから、ボクにとって介護は特別なものではなかったのです。同時に、家長として威厳があり怖かった祖父が、どんどん弱々しい存在になっていく姿を目の当たりにし、避けられない老いとどう向き合うかということを知らず知らず考えるようになっていました。

高校3年、いざ進路を決めなければというとき、大学進学か専門学校かで迷いました。ボクは中学・高校時代ずっと柔道をしていたのでその道で大学へ進むという選択肢もあったのですが、減量の大変さや故障もあり、この先続けられるのか、からだが持たないのでは、という不安がありました。悩んだ末、専門学校で資格を取ろう、手に職をつけようと決めました。ちょうど徳島健祥会福祉専門学校が創立されるというときであり、これから介護の仕事の需要がどんどん大きくなるということは目に見えていましたから、この道を選んだのです。今思えば、非常にタイムリーだったわけです。

どんな学生でしたか？

なにせ勉強嫌いの学生でしたから、専門学校時代はあまり胸を張って言えることはないのですが、実習はとにかく楽しかったですね。施設のスタッフとの関わり、利用者さんとの関わり、机上の勉強と違って、現場はなんていきいきしていてやりがいがあるんだろう、おもしろいんだろうと思いました。もともと人と関わるのは好きでしたから、排泄介助も最初は少し抵抗ありましたが、すぐに何でもなくなりました。だってうんちするってあたりまえのことなんだから。もちろん現実は楽しいことばかりではないのですが、実習が現場への意欲を育んでくれたことは間違いないです。


学生時代、介護福祉学科の仲間たちと

学校は熱心な指導で知られていますね

先生方の熱血指導には定評がありますよね。そして理学療法士や作業療法士の国家試験合格率は、県下はもちろん全国でもぴかイチですが、私の頃は介護福祉学科しかなく、国家試験受験が必要なかったこともあり、実は先生方と密に関わったという記憶はあまりないんです。何度も言いますが、勉強嫌いでしたしね。

学校を身近に感じるようになったのは、卒業してからです。自分も現場に出て様々な人と関わるようになってはじめて、先生とも親しく向き合えるようになりました。学生のときは教えてくれる人でしかなかった先生が、悩みを打ち明けたり、相談にのってもらえる人になったんです。様々な分野のエキスパートもいらっしゃいますから、興味深い話を聞かせていただいたり、アドバイスもいただいたり、先生方との関わりの中で仕事の上でも人間としても幅が広がっていると感じています。今は学校がボクのキャリア形成の上で大きなキーになっており、何かにつけ学校を訪ねています。



現場で壁にあたったことは？

仕事を始めた当初2〜3年は、現実との葛藤があり、また職場の人間関係にも悩みました。けれど、ある時期から仕事優先でなく、とにかく利用者さんに寄り添うこと、きちんと訴えを聞き、よけいなしばりをなくしてゆるやかに過ごさせてあげることこそ大事だし、それは不可能ではないと思えるようになったんです。

いつだったか、帰りたい帰りたいと泣いて訴える入所者さんをご自宅へ連れて帰ってあげて、いっしょに泊まったことがありました。ちゃんと思いを受け止めてあげたことでその方はすっかり落ち着き、翌日には納得して施設へ戻りました。また、一日買い物のお供をしてまわったこともありました。利用者さんはわがままを言ってるんじゃない、自分を持っているのです。この忙しいときに…とうんざりするのでなく、何故を問うて、根本の原因を見つけることが一番の解決策。業務が忙しいことを理由にしてはいけません。忙しいと思っているのは自分の問題。目の前の人の訴えにゆっくりと耳を傾け、目を向け、心をかけ、今大切なことを確実に





長寿の里、安心・安全の高齢者住宅 春水
開所：2010/12
定員：40 名

〒770-0047 徳島県徳島市名東町 3 丁目 13
TEL.088-634-2023

してあげる。現実問題として一人の入所者さんに職員一人が付きっきりにはなれないだろうと思われるでしょうが、その日一日は大変だったとしても、本当の意味での利用者さん本意を貫けば、お互いの満足が得られ、それが信頼関係につながり、自分自身のやりがいにもつながるのです。

施設長としての苦労は？

もちろん施設長となれば、経営を考えねばなりません。経営がうまくいってこそ、入所者さんにもいいサービスを届けられるし、職環境もよくできる。経営上どうしても必要なこと、外せないことはありますが、できるだけ職員の想いやしたいことを汲んであげるように努めています。もともとは現場の人間ですから、経営者ではわからないことをわかってあげられる。経営者と現場の緩衝剤として、ボクが現場に顔を向け、現場に入り動くことが大切だと思っています。デスクに座っているだけの施設長には退場願いたいですね。

新施設を任せてもらって三年、中間層にあたる人たちが去っていったり、いろいろしんどい時期もありましたが、経営陣は何が大切かを理解し、現場の思いを認めてくれている。本当に感謝しています。また職員には自ら発想して動くことができるよう、促してきましたが、しっかりと育ってくれています。この施設は言葉通り、職員といっしょにつくり上げてきた施設です。今後、キャリアアップが図れるよう研修体制も充実させ、さらに職環境を良くしていきたいと考えています。

学校の創始者である故中村博彦先生について

事あるたびに、「専門性を磨け、人間性を陶冶せよ」と、ボクらを叱咤激励くださった中村博彦先生がもういらっしゃらないというのは本当に淋しく残念な思いです。先生は常に時代の先を読み、いち早く行動を起こしてきた希有な人でした。先生がボクらに託そうとしたものは、超高齢社会を支えるのだという使命感とボクらなくして超高齢社会は支えられないという専門職としてのプライドなんじゃないかな。それを胸に常に進化していきたいと思っています。

専門性とプライドってね、例えば、理学療法士や作業療法士には専門性があるでしょ。ところが介護の専門性というと、まだ確たるものがない。看護には基本があってそれを踏まえての応用があるのだけれど、介護にはない。個々の人材の手探りや我流の面が多くて、ケアの統一すらまだないのです。だからプライドが持てない。中村先生が科学的介護の構築と標準化を必死でめざしておられたのも、そういうことなんだと思います。ボクも声を大にして、職員にも、後進の皆さんにもいいたい、「プライドを持とうよ」って。

どんな同窓会にしたいですか？

ボクらの同窓会は、２０１４（平成26）年3月、介護福祉学科17期生、理学・作業療法学科12期生、そして保育福祉学科3期生を迎え、会員総数は２１００名を超えます。ずいぶん大きな組織となりましたが、学校との密な関係は大事に維持していきたいですね。いちばんの役割は卒後教育の充実。おもしろい研修会を企画したり、スピーディーな情報提供を行える体制づくりをしたり、各分野における知識・技術の向上、専門性の追求を継続的に図り、いっそう中味の濃い活動を展開したいと考えていますので、ご意見ご協力、そして何より積極的なご参加をよろしくお願いします。

取材を終えて

藤原施設長に案内され、デイサービスルームを見学。最新のスリングエクササイズで体操に精を出す人、理学療法士の機能訓練を受ける人、読書する人、おしゃべりする人、誰もが思い思いに時間を楽しんでいる。施設長は軽やかに現場を動きまわる。軽やかなのだけれど、こだわりの目線を行き届かせながら、利用者に笑顔で声をかけ、スタッフに指示を出す。健康体操の指導にはスポーツトレーナーを配置しているという。限られた運営費の中で、どう専門性を高めるか、利用者のためを追求するか・・・これも施設長としてのこだわりだ。明るくてあたたかくて、いい施設だなと思う。藤原施設長の思いや人柄が、施設にはちゃんとカタチになって現れている。



素晴らしい出会いに感謝して、志 いつまでも

理学療法学科　2006(平成18)年度5期卒業生

横野志帆 さん　勤務先：医療法人 徳寿会　鴨島病院

高校2年生の夏まで、私は理学療法士の存在すら知らず、もちろん、どのような仕事をしているのかもまったくわかっていませんでした。出会いは、現在の勤務先である鴨島病院での職業体験。理学療法士の一日体験に参加したときのことです。

機能訓練室から始まった一日体験。そこには同じ目標に向かって頑張っている患者様とセラピストの姿がありました。その真剣な姿を目の当たりにした瞬間、強い衝撃を受け、即座にこの仕事をめざしたいと思ったことを今でも鮮明に覚えています。志のはじまりの日でした。

あれから11年。専門学校で尊敬する恩師と出逢い、ともに支え合い、辛いことも一緒に乗り越えられる数多くの友人と出逢いました。また理学療法士を志すきっかけとなった病院へ就職し、人生の先輩であり理学療法士としての先輩でもある頼もしい上司や、私自身に新しい気付きを与えてくれる後輩と出逢いました。



沢山の出逢いの中でも特に大切にしている出逢いは、理学療法訓練で担当させていただく子どもたちとの出逢いです。彼らは、私が一人の人間として成長していく中で、新たな価値観を与えてくれ、生きる喜びや使命を教えてくれます。彼らから改めて教わった、“生きている”ということ素晴らしさ。限りある人生だからこそ、自らの意志で自由に行動できる、その一瞬一瞬を大切にして生きていきたいと思います。これから様々なことに挑戦し、自分の知らない新たな地へ足を運び、様々な人、文化、自然と触れ合い、五感のすべてで生きる楽しさを味わいたいと思います。そして、生きる楽しさを沢山の子どもに感じてもらえるよう、子どもたちの良き理解者、時には代弁者となれるように努めていきたいです。自分の進み行く方向には、また新しい自分が待っています。沢山の出逢いに感謝し、これからも志を大切に、一歩ずつしっかり歩んでいきたいと思います。

+UPDATE
それぞれの現場で頑張る 4学科卒業生近況報告



子どもたちの成長を喜びに

保育福祉学科　2012(平成24)年度2期卒業生

中山裕紀 さん　勤務先：社会福祉法人青嵐会 青嵐保育園

青嵐保育園で3歳児のクラスを担任させていただいています。就職して1年目でクラス担任をすることとなり、初めは、技術も知識もまだまだ未熟な自分に十分に努まるだろうかと不安の日々でした。子どもたちのために何ができるのかと悩みもしました。しかし、毎日心とからだで一生懸命関わることで、共感し合い、保育の楽しさを知ることができました。子どもたちの成長に気づくことで、この仕事の喜びも知りました。

泥団子作りに興味を示した女の子。いっしょに作ってみた翌日から、毎日のように砂場へ行き、一人でも熱心に取り組むようになりました。少しずつ形を整え、きめ細かに作れるようになり、「まん丸の形すごいね」と褒めるととても嬉しそう。繰り返し遊ぶことで、今では年長児に負けないくらい上手に作れるようになり、内気だった子が積極的に友だちに教えてあげたり、「また作ってよ」「一緒に作ろうな」と友だち関係もぐんぐん広がっていました。子どもたちが興味・関心を持ち、繰り返し遊び、遊びを通して学んでいくためには、日々の生活をともに過ごす保育者の言葉かけや関わりが重要であることを実感させられました。子どもたちが大好きだから、この仕事に喜びを感じるから、精いっぱい専門職としての知識を深め、子どもとともに学び成長できるよう努力していきたいと思います。





患者様あっての作業療法士

作業療法学科　2012(平成24)年度11期卒業生

寺橋絵理 さん　勤務先：医療法人 眉山病院

専門学校卒業後、作業療法士として眉山病院で勤務しています。春には満開の桜、秋には紅葉、眉山の自然に囲まれた、恵まれた環境の病院です。

臨床では、学校で学んだ知識を反映することが難しく落ち込む日もありますが、患者様からの何気ない声かけや「ありがとう」の一言に、作業療法士としてのやりがいや喜びを感じています。

私が担当させていただいている患者様の中から、お一人、紹介させていただきます。その方は、重度の認知症のためコミュニケーションが困難な方でした。介入当初は関わり方に悩む毎日でしたが、四苦八苦しながらも、どうすれば患者様が心を穏やかに生活できるのかを常に考えていました。月日が経つにつれ、声かけにこちらを向いてくれるようになりました。次には、頷きが見られるようになり、最近では挨拶をしてくれるようになりました。

先日、「私のこと覚えていますか？」と聞いてみました。首を横に振るのかな、と思っていましたが、返ってきた答えは違っていました。笑ったことが一度も無かった患者様がニコっと笑い「ほら、覚えとるよ」と言ったのです。ささやかなことかもしれませんが、私にとっては大きな出来事で今でもあの時の笑顔が忘れられません。

作業療法士の仕事は患者様なくしては成立しません。リハビリを「している」ではなく、「させていただいている」のだということを私はいつも念頭に置いて、患者様に向き合っています。患者様への感謝の気持ちを忘れることなく、心に寄り添える作業療法士になれるよう精進していきます。





初心をいつまでも忘れずに

介護福祉学科　1998(平成10)年度2期卒業生

柿本知志 さん　勤務先：社会福祉法人 東紅会　在宅介護支援センターヒワサ

現在の職場に就職して15年目を迎えています。特養の介護職員やデイの生活相談員、在介センターのソーシャルワーカー等を経て、今は、在宅のケアマネジャーとして勤務しています。ケアマネとしての業務が一番長くなりましたが、これまで比較的早いペースで施設系・在宅系の各部署で勤務する機会をいただき、様々な面から高齢者福祉に携わることができたことを大変ありがたく感じています。

業務内容は相談や連絡調整が中心であり、直接利用者様をお世話する機会がない分、援助をしている実感が少なく、また、ケースによっては力不足を感じたり、頑張っても報われない思いを抱くこともあります。しかし、自分が提供する支援で利用者様やご家族から感謝の言葉をいただいたり、利用者様が安心して在宅生活を送られている様子を目の当たりにできたときには、大きなやりがいを感じ、次からの支援へのモチベーションにもつながっています。

業務とは別に、2005(平成17)年度からは介護技術講習会の指導者を務めさせていただき、同じ福祉の職場で働き、資格取得に励まれている方々と交流する機会を持っています。指導する立場ながら、毎回たくさんの熱心な受講生の皆さんからよい刺激をいただきながら、一緒に学んでいます。

皆さんの姿を見ていると、福祉の仕事をめざしていた専門学校在学中や就職してすぐの頃のことを思い出します。「人の役に立てることを仕事にしたい」との考えの下、介護福祉学科に進みましたが、15年勤めてもその気持ちは変わらず持ち続けています。学校訓である「初めに意思ありき」の言葉を大切にし、初心を忘れず、今後も利用者様やご家族、地域福祉に対して、少しでも役に立てるよう、業務に励んでいきたいと思っています。



EPA卒業生インタビュー

今を楽しみ、今を頑張り、もっともっと上をめざして！

海と山に囲まれた自然豊かな海部郡海陽町にある老人保健施設 ジャンボ緑風会にはEPA就学生1期生と2期生の4名が働いています。卒業後の近況をインタビューしてきました。

介護福祉学科
2011（平成23）年度 15 期卒業生
アルチェス・フィービー・L. さん
カリーノ・ロレイン・P. さん
モンタノ・クリスティン M. さん
2012（平成24）年度 16 期卒業生
バアイ・クリスティン・グレイシェル B. さん

日本に来て、学校で学んでよかったと思うことは？

フィービー： 国家資格を取得し卒業できたことが何よりも幸せ！そして、初めて貰った給料はとっても嬉しかったです。

ロレイン： 日本人のみんなとともに勉強したことで、自信がつきました。でも、仕事の現場では日本人とのレベルの差を感じます。もっと力をつけたい！

クリスティン： 学校で学んだことが生かせることが嬉しいです！

今、苦労していることや頑張っていることは？

ロレイン： 利用者さんの中には、言葉がうまく伝わらないせいもあり、私たちのことを好ましく思っていない人もいます。でも、利用者さんと距離があると、ニーズを掴むことができません。利用者さんも信頼できない人に介護されるのは苦しいことです。だから、心が通じ合えるように頑張っています。

クリスティン： 利用者一人ひとりを理解し、対応していくことが難しいですが、理解しないと事故につながってしまいます。分からないことは先輩に聞いて教えてもらいながら、頑張っています。

グレイシェル： 記録に一番苦労しています。そして、7月から夜勤を一人で行っていますが、毎回大緊張です。多くのことを覚えて早く一人前になりたい！利用者さんの役に立ちたいです。



働くなかで嬉しかったことは？

クリスティン： 職場のチームワークがよいところ。また、地域の文化祭やデイでフィリピンの踊りを披露し、喜んでもらったこともとても嬉しかったです。

グレイシェル： 入所者さんがとても優しいです。「グレイちゃん」って呼んでくれるのが嬉しい！3人の先輩がいることもとても心強いです。

ロレイン： 職員さんに買い物に連れていってもらったり、四国88カ所の24～26番札所も巡りました。プライベートでの出来事は利用者さんとのコミュニケーションにも活かすことができています。

フィービー： 周りの人たちがとても優しくて、まるで両親の代わりのようにいろんなことを教えてくれます。本当に恵まれた環境にいると感じています。

最後に今後の夢や目標は？

フィービー： 入所者さんに楽しい生活を提供したいです。日本語能力をUPさせて、看護師の資格を取りたいと思っています。

ロレイン： 日本語能力試験1級に合格したいです。私たちのような就学生が増えてほしいし、先輩として、力になりたいです。

クリスティン： 利用者さんに安心して生活をしてもらいたいです。ケアマネージャーの試験に挑戦してみたいなあ！

グレイシェル： ここでしっかり経験を積んで、研修で行った大阪の健祥会エンリケで働いてみたい。



○介護現場で働く4人は、学生時代のあどけない様子から、一人の専門職としての顔になっています。利用者様のことを思い、周囲のサポートに感謝しながら、前向きに取り組む凛とした姿が印象的でした。

卒業生に在校生から 嬉しいサプライズウエディング！！

Happy Wedding



宮本朋哉 さん（介護福祉学科 14 期生） & 岡田涼子 さん（介護福祉学科 14 期生）

2013（平成25）年5月、同窓生同士で結婚なさった宮本朋哉さん（勤務先：社会福祉法人鳴寿会 特別養護老人ホーム鳴優荘）と岡田涼子さん（勤務先：医療法人久仁会 鳴門山上病院）。お二人から専門学校に、「結婚式は挙げないけれど、出会いの場、そしてたくさんの思い出を刻んだ場である学校で記念の写真撮影をしたい」との連絡が入りました。もちろん学校は快諾！このニュースに、「素敵！ぜひみんなでお祝いしましょう！」と、在校生たちの発案によりサプライズウェディングが企画されました。

二人の同窓生たちも駆けつけてくれた当日。在校生が一号館に折り鶴シャワーで花道をつくり、二人を迎えました。驚き、そして涙する宮本朋哉さん、岡田涼子さん。その姿に在校生たちもうるうる。サプライズ大成功で、学校にまたひとつ素敵な思い出が刻まれました。セレモニーでは、在校生や同窓生、教員からのメッセージと花束、心を込めて作った手作りパンなどをプレゼントし、二人をお祝いしました。

この学校で出会った二人が、卒業後も絆を深め、ともに歩む新たな人生の門出に母校を選んでくれたことが何よりも嬉しく、その場にいた誰もがとても幸せな気持ちになりました。本当におめでとう。後日二人から、感謝の気持ちを綴った手紙とともに3冊の本を図書館にいただきました。ありがとうございました。

どうか 末永くお幸せに・・・！

介護福祉学科



利用者に思いを馳せ、学生とともに成長を

介護福祉学科 教員　松田 圭司

縁あって、母校である徳島健祥会福祉専門学校で教職に就かせていただいています。介護福祉士の養成は大きな転換期を迎えます。今後、学生にも国家試験が義務付けられるようになり、実務ルートからは３年の実務経験と介護福祉士実務者研修修了が国家資格受験要件となります。また、介護福祉士に求められる専門性は医療的ケアも含めてより高度なものになっています。しかし、介護福祉士の本来めざすべき姿に変わりはありません。介護者と利用者である前に、人と人として心を通わせ、後悔のないケアを提供できる専門職であること。そんな人材の育成をめざし、学生の向こう側にいらっしゃる利用者に思いを馳せながら、学生とともに一歩一歩成長できるようさらに精進してまいります。

介護福祉学科



厳しくも愛情ある指導を

介護福祉学科 総括・専任教員　西山 恵子

福祉の現場経験37年にして初めて教員として教壇に立つことになりました。今まで現場職員への研修の講師を務めたことはありますが、介護福祉士をめざす学生を教えるのは初めてであり、その責任の重さを痛感しています。これからの介護業界を担うたくましい人材が育成できますよう、厳しくも愛情ある指導を心がけたいと思います。

保育福祉学科



学びやすい専門学校めざして奮闘努力中

保育福祉学科 学科長・総括　樽見 義

今年度より保育福祉学科長を務めさせていただいています。前職は高校の教員であり、同じ教育の現場とはいえ、保育や福祉には初挑戦でした。少なからず戸惑いながらのスタートでしたが、皆さんに助けていただきながら伝統ある他学科の後に続けるよう奮闘努力中です。学生の皆さんが学びやすい楽しい専門学校をめざしてさらに頑張ります。どうぞよろしくお願いします。

教員増強で、教育態勢の充実を！
卒後教育にもいっそうの注力を！

2013（平成25）年４月、新たに着任した教員を紹介します。

保育福祉学科



保育者から教員へ、新たな挑戦

保育福祉学科 教員　都野 誠一

こまつしま健祥会保育園での保育士としての勤務を経て、現在、保育福祉学科の教員をさせていただいています。絵本の読み聞かせや、言葉の授業を担当しており、専攻である絵本の読み聞かせでは、タイの教育支援NGO「マレットファン」の教育支援活動に参加し、絵本をテーマにしたワークショップの講師などを務めた経験もあります。

常に子どものよりよい成長のためにどう関わるべきかを考え、子どもたちの気持ちに寄り添える保育士育成をめざし、学生とともに頑張っていこうと思っています。現場経験も浅く、教員としてもまだまだ未熟なところばかりですが、どうぞよろしくお願いします。

保育福祉学科



感性豊かな人材を育てたい

保育福祉学科 教員　七條 陽子

保育士・幼稚園教諭として、20年あまり現場で働いてきましたが、2013年度より徳島健祥会福祉専門学校でお世話になることになりました。子どもたちが大好きだから、現場を離れる淋しさはありましたが、後進の育成の大切さを思い決心しました。学生たちに、子どもたちの素晴らしさを伝え、知識と技術だけでなく、感性豊かな意欲のある保育士・幼稚園教諭に育ってもらうために力を尽くしたいと思っています。学校ではまだまだ新人ですが、現場で培ったやる気と根気と子どもへの愛情で、学生と一緒に、気持ちも新たに頑張っています。どうぞよろしくお願いします。

理学療法学科



厳しさと優しさのバランスを

理学療法学科 教員　北田 功

本校の理学療法学科６期生です。卒業するときは、自分が教員になり母校に帰る日が来るとは夢にも思っていませんでした。人生は波乱万丈だと自分自身の卒業アルバムに書いたことを覚えていますが、その通りの人生になってきたように感じます。自分の思いや考えを伝える能力はかねてから必要だと感じていましたが、教員としてどれほど力を発揮できるか、不安とともにやる気いっぱいのスタートでした。３年間をともに学び、持てるすべてを教え、学生たちには誇りを持ってこれからの医療介護の現場を担っていってほしいと考えています。厳しさと優しさのバランスに葛藤しながら、恩師のアドバイスを受けつつ、一人前の教師になれるよう頑張っています。

専門職として常に進化し続けるために!
いつもいつまでも
「学び」を支える同窓会でありたい

各学科同窓会勉強会



理学療法学科、作業療法学科ですでに回を重ねている同窓会勉強会ですが、本年は介護福祉学科と保育福祉学科でも始まりました。その様子を報告します。参加者からは勉強になった、今後も継続してほしいとの感想が寄せられています。毎日の勤務で忙しいこととは思いますが、来年度はもっともっと多くの方にご参会いただけたらと願っています。学校もできる限りのサポートをしてまいります。

介護福祉学科

勉強会スタート! 実践に学ぶことといっぱい!

「理学・作業療法学科のように、介護福祉学科でも卒業生の勉強の場や集まり語り合える場をつくってほしい」との声を受け、念願の「介護福祉学科 卒業生勉強会」が実現しました。

記念すべき第1回は、4期生平田裕樹さんによる「排泄自立の理論と実践方法」というテーマでの講義に15期生15名が参加しました。第2回、9期生井後定治さんの「口腔ケアについて」には、15・16期生25名が参加。翌日から即実践できることをあれこれ教えていただくとともに、常々疑問に思っていたことも解決され、充実した勉強会になりました。終了後は、日頃の悩みを相談したり、技術面のアドバイスを受けたり、介護現場で培った先輩達の膨大な知識と実践力に圧倒されるとともに、学び続ける大切さを実感しました。

外部講師を招いた第三回。「プロから学ぶ洗髪介助の仕方」をテーマに、life美容室店長渡辺哲也さんから、入浴実習室で実践しながら、寝たままの洗髪介助を学びました。また、私たちにできるマッサージの方法を教えてほしいとの参加者からの希望があり、簡単だけどとっても気持ちいいマッサージの方法も教えていただきました。

今後も皆さんからご意見をいただき、充実した勉強会にしていきたいと思っていますので、どしどしご要望をお聞かせ下さい。一番の目的はもちろん「学ぶこと」ですが、卒業後、同級生や先輩・後輩が母校に集まり語り合う機会として、「明日からまた頑張ろう!」という力になってほしいと心から願っています。





第1回「排泄自立の理論と実践方法」開催日 2013年3月21日
講師 平田裕樹さん（4期生／勤務先：健祥会　パーデン　生活相談員）　参加者 15期生 15名

第2回「口腔ケアについて」開催日 2013年7月8日
講師 井後定治さん（9期生／勤務先：健祥会　ヘルス　生活相談員）参加者 15・16期生 25名

第3回「プロから学ぶ洗髪介助の仕方」 開催日 2013年9月30日
講師 渡辺哲也さん（life 美容室 店長）参加者 15・16期生 13名

保育福祉学科

学びの場として交流の場として、もっと広げていきたい!



2013年5月18日、保育福祉学科の第1回同窓会活動が行われました。はじめに、今年度赴任した学科長樽見義、教員七條陽子、都野誠一を紹介。続いて、今年で社会人2年目の1期生と2013年4月から新人職員として働き始めた2期生からの近況報告がありました。

1期生は、社会の荒波にもまれ、卒業時と比べるとその姿は一回り成長した様子で、担任として、職員としての自覚と責任を感じる発言に頼もしさを感じました。2期生からは「毎日が新しいことばかりで、戸惑ったり、悩んだり大変ですが、子どもの成長する姿を見ることができ、時間が過ぎるのが早いです」とのコメント。「現場では子どもの目線に立つことが何より大事だと在学中に先生が話しておられたことが、今、実感として理解できました」「勉強もピアノなどの練習ももっとしておけばよかったです」という切実な声も聞かれました。

10月6日に実施された第2回は、1期生大西崇史さんによる事例発表。第46回 中国四国地区幼児通園施設職員研究協議会で発表した児童発達支援センターでの「感覚遊び」の取り組みを、本校でも実践してくださいました。障がいのある子どもたちと職員、または子どもたち同士が、「感覚遊び」を通してどのように関わりを持っていくかについて、興味深い事例が報告され、参加者からは様々な質問が投げかけられるとともに、「本園でも試してみます」という声もあがっていました。

活動を振り返ると、それぞれの勤務先の休日がバラバラであること、卒業生のほとんどが現場で忙しいことなどにより、思いのほか参加者が少なく、来年度は当初に年間計画を立て、余裕を持って、より実りのある会にしていきたいと感じました。しかし、学びだけでなく、卒業生の再会の場として好評で、同窓会終了後、食事に行き、思い出話に花を咲かせたり、近況を語り合ったりしているようでした。

今年度から始まった同窓会活動ですが、今後も継続的に行っていきたいと思っています。著名な方に講演をしていただいたり、各勤務先で得た知識や経験を出席者同士で共有し合い、お互いを高め合ったり、より良い人材育成の場にできればと思っています。また、卒業生にとどまらず、在校生にも呼びかけ、先輩たちとの交流の場にできたらと思っています。

本年度も学校祭と同時開催！
平成25年度 同窓会総会

11月3日（日）、徳島健祥会福祉専門学校1号館（視聴覚室）で平成25年度同窓会総会が開催されました。藤原会長の開会挨拶に続いて、齋藤史郎学校長より、急逝された中村博彦前理事長のこと、医療・介護をとりまく状況や本校の取り組みなどについてお話をいただいた後、議事に移りました。議案として、①平成24年度の事業報告②平成24年度会計報告③平成25年度事業計画（案）④平成25年度新役員（案）が上程され、すべてが滞りなく承認されました。

25年度役員は、幹事（2名）理学療法学科11期・渡部寛生、作業療法学科9期・多田薫、会計（1名）濵田哉美、監事（1名）荒岡優です。また、今年度で役員を退かれた幹事（3名）介護福祉学科5期・高橋達、理学療法学科5期・板東杏太、理学療法学科2期・大西康平、会計（1名）介護福祉学科12期・吉阪友希の4名の方の労をねぎらい、記念品が贈呈されました。

以上で無事総会を終え、その後、参加者は同時開催の学校祭に参加し、学生の展示や発表を見学。健祥会パートナーではシカゴプードルさんと藤田麻衣子さんのスーパーライブを楽しみました。



平成25年度新役員

幹　事（2名）	渡部 寛生	理学療法学科11期
	多田 薫	作業療法学科9期
会　計（1名）	濵田 哉美	介護福祉学科16期
監　事（1名）	荒岡 優	介護福祉学科14期

退任

幹　事（3名）	高橋 達	介護福祉学科5期
	板東 杏太	理学療法学科5期
	大西 康平	理学療法学科2期
会　計（1名）	吉阪 友希	介護福祉学科12期

2013(平成 25) 年度同窓会役員を努めて

「生涯勉強」をサポートして



多田 薫

作業療法学科9期生　2010（平成22）年度卒

勤務先：兼松病院

本年度、初めて同窓会役員を務めさせていただき、同窓会活動がこれまで以上に充実したものとなるよう、頑張ってきました。講師の先生を招いて定期的に行った作業療法学科勉強会には多数のご参加をいただき、「生涯勉強」への意欲を感じました。今後も、積極的に同窓会に関わり協力していきたいと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

同じ志のもと、活発な同窓会に



荒岡 優

介護福祉学科14期生　2010（平成22）年度卒

勤務先：美馬西部消防署／消防士

介護福祉学科を23年に卒業し、現在、美馬西部消防署に消防士として勤務しています。職種は違いますが、人のために働くという志は、介護福祉士も消防士も同じ。同窓会は、同じ志を持った多くの先輩や後輩の皆様と語り合い、自身を磨き高めていける場所であると思い、役員を努めさせていただきました。今後も活発な同窓会になるよう、協力したいと思っています。1年間ありがとうございました。

つながりを確かめ、刺激し合えた１年間にありがとう

仕事や生活の糧となる活動を



濵田 哉美

介護福祉学科16期生　2012（平成24）年度卒

勤務先：老人保健施設 健祥会ハート

現場に出て、改めて人と人との繋がりの大切さを実感したことから、様々な場所で活躍している同窓生同士を繋いでいく役割を果たしたいと、役員を努めさせていただきました。1年間、仕事や生活の糧となるような活動をめざしてきたつもりですが、お役に立てたでしょうか？同窓会は皆様からのご意見を待っています。どしどしお寄せください。1年間ありがとうございました。

刺激ある同窓会活動を



渡部 寛生

理学療法学科11期生　2012（平成24）年度卒

勤務先：老人保健施設 健祥会ハート

現場に出て1年目の若輩者ですが、学生時代、同じ目標に向かって競い合った仲間たちと、いつまでも刺激し合い育ち合えるような環境をつくっていきたいと思い、役員を努めさせていただきました。本校の同窓会は、仕事面だけでなく楽しい交流の場としての役割も果たしてくれており、自分自身も成長しながら、楽しみながら、活動させていただくことができました。ありがとうございました。

編集後記

今年度は、健祥会グループの創始者であり、本校の創設者である中村博彦前理事長が永眠され、中村太一新理事長という若いパワーがグループを率い、新たな歩みを始めるという劇的な年となりました。本校も、そして同窓会も、前理事長への感謝を胸に、新しい時代に向かってさらなる進化を遂げていかねばなりません。全国で、介護福祉士・保育士・理学療法士・作業療法士として働く本校同窓会員は、2100人を越えました。皆さんをネットワークし、それぞれの専門性に資する活動ができますよう、より充実した同窓会活動を展開してまいりたいと思います。その第一弾として、同窓会報を一新しましたが、いかがでしょうか？今後とも、より多くの会員の皆様に、同窓会活動へのご意見ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、会報誌制作にあたりご指導・ご協力をいただきました皆様方に心より感謝申し上げます。

事務局より



徳島健祥会福祉専門学校開学・入学式にて (1996 年)

ありがとう!中村博彦理事長先生!

数々の教えを胸に、現場で頑張ります!

「初めに意志ありき　観察眼を養え　問題提起力を持て　そして労を惜しむな」という学校訓を掲げて、超高齢社会を支える福祉スペシャリストの育成をめざして1996（平成8）年介護福祉学科を開学。以来、理学療法、作業療法、保育福祉各学科を増設し、高い専門性と人間性を備えた人材の育成に力を注いできた中村博彦健祥会グループ前理事長が、2013（平成25）年7月31日急逝されました。

徳島健祥会福祉専門学校は、前理事長の思いを具現化する教育方針を礎として、これまでに約2100名の卒業生を社会に送り出しています。ご多忙の身にも関わらず、入学式、卒業式をはじめ、実習への立意式、ヨーロッパ研修への壮行式、そして学校祭など、前理事長は折々に学校を訪れ、学生たちとの触れ合いを大事にしてくださいました。ときには励まし、ときには叱り、そしていっしょに笑い、語り合い、前理事長との思い出はつきません。卒業時に贈られた天童の駒に記された言葉、そしてアルバムの言葉は、前理事長の卒業生への期待と愛情にあふれています。今、前理事長のご冥福を祈りながら、あらためてその言葉をしっかり噛み締め、明日への標にしたいと思います。中村博彦先生ありがとうございました。


人気者だった理事長先生 (2012 年度学校祭)


学びの成果を体感 (2012 年度学校祭)


現場へ向かう学生たちに激励の言葉を (2011 年立意式)


同窓会ブースにて卒業生とともに (2012 年度学校祭)


「汗と涙の上に人は成長する」二宮金次郎像除幕式 (2009 年 4 月)


学校祭でご講演いただいた野村克也氏と (2012 年度学校祭)

医療と介護の連携で地域に安心を！
高品質介護でご高齢者に生きる嬉しさを！

中村博彦前理事長が思いを込めたふたつの施設がオープンしました

日々のすこやかを地域の皆様に
健祥会グループ関連医院
むくの木クリニック
国府町東高輪に開院

高齢化の進展と要介護者の重度化、認知症の増加に伴い、高齢者ケアは医療と介護の連携なしには成り立たなくなっています。健祥会グループでは、医療・看護・介護領域を包括した重層的なケアの構築をめざし、30周年記念事業として徳島大学との共同研究を推進、科学的介護を構築してきました。この成果をさらに進化させ、医療・福祉・教育の連携を推進してゆく方針です。
その第一歩として、連携法人である医療法人青嵐会により、2014（平成26）年３月1日、本校に隣接して、「むくの木クリニック」が開設されました。
名称には地域に根を張り、皆様のすこやかな毎日をお手伝いしたいとの想いを込め、キャッチフレーズに「けんこうの森」と掲げています。健祥会グループの高齢者施設は、「むくの木クリニック」と連携し、利用者の医療ニーズに応え、健康管理と疾病予防・介護予防に務めてまいります。同時に、徳島健祥会福祉専門学校の生きた学びの現場としても、連携・活用を図ってまいる考えです。



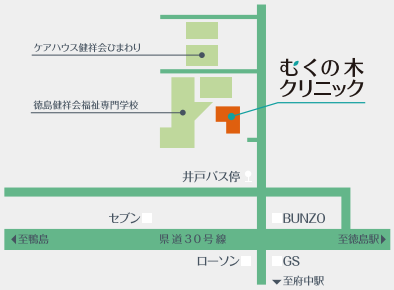
内科・外科・整形外科・脳外科・リハビリテーション科

人間ドック・入院応需　・CT、X線、マンモグラフィ、内視鏡、超音波完備

けんこうの森
むくの木クリニック

国府町東高輪に
3月1日(土)開院

理事長：齋藤史朗　院長：藤野良三



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:30	○	○	○	○	○	○	
14:30～18:00	○	○		○	○	○	

●診療時間/9:00～12:30/14:30～18:00　●休診日/水曜日午後・日曜日・祝日

☎ 088-624-7575

〒779-3105 徳島市国府町東高輪353-1

[アクセス]
・徳島バス覚円線「井戸」バス停から徒歩約10分。
・徳島駅から車で20分
・JR徳島線「府中駅」から徒歩約25分。

笑顔、いっぱい、ありったけ
地域密着型特別養護老人ホーム
健祥会ライデン
北島町に3月1日オープン！

品質の高さと全国第3位の出荷量を誇るチューリップの町、そして人口減少著しい徳島県にあって県下一元気な町、北島町に、地域密着型特別養護老人ホーム健祥会ライデンがオープンしました。
健祥会30余年のノウハウと、専門性とエビデンスに裏打ちされた科学的介護により地域ケアの拠点となって、北島町の皆様の自立を支援し、安心と安らぎ、そして笑顔と生きる嬉しさをお届けしてゆきます。
明日、この街に、笑顔と安心が広がりますように。



健祥会ライデン（左）に隣接してサービス付き高齢者住宅健祥会デルフト（右）が６月オープン予定です。



「ライデン」は、オランダ・ライン川畔の歴史と大学の町。オランダにおいて初めてチューリップが栽培された町であり、オランダを代表する画家・レンブラントの生誕の地です。頑張って頑張って日本の高度成長をつくってくださった方々の人生の最終章が、花と芸術の香りで彩られたやすらかな日々でありますようにとの思いをこめて、「ライデン」と命名しました。

定員　29名(ショート11名)
利用条件　北島町に在住で、要介護1以上と認定された方

☎ 088-624-7701

〒771-0202 板野郡北島町太郎八須字備後江家10番1

[アクセス]
・徳島バス鳴門・立道線「北村団地前」から徒歩約10分。
・徳島駅から車で20分
・JR鳴門線「勝瑞駅」から徒歩45分。

WILL
徳島健祥会福祉専門学校 同窓会会報 | ウィル
vol.07 March 2014

明日を想う
健祥会グループ

発行日 2014年3月1日
発　行 徳島健祥会福祉専門学校同窓会 〒779-3105 徳島県徳島市国府町東高輪 TEL.088-642-9666 info@kensyokai.ac.jp

社会福祉法人 健祥会
徳島健祥会福祉専門学校

徳島健祥会福祉専門学校の最新情報は
ホームページよりご覧いただけます
http://www.kensyokai.ac.jp/